

# 久米島における海草藻場と アオウミガメの共存の在り方を考える

事前登録不要  
**参加無料**  
定員100名

2025年  
**3/24** (月)  
**13:00-16:30**

**会場** イーフ情報プラザ  
交流ホール

近年、絶滅危惧種であるはずのアオウミガメが急増し、過剰な摂食により、熱帯・亜熱帯域の海草藻場が衰退するという事例が世界各地で報告されています。日本では久米島をはじめとする南西諸島の海草藻場が壊滅的な被害を受けており、緊急の対応が必要です。

本シンポジウムでは、久米島におけるアオウミガメと海草藻場に関する最新の研究成果を、久米島町民・関係者の方々と共有することで、「両者の共存に向けて久米島が出来る事」について議論します。

## 第一部：久米島におけるアオウミガメと海草藻場の現状

1. アオウミガメの生態と個体数が増えた要因 奥山 隼一 (水産研究・教育機構)
2. 久米島のウミガメの現状 塚越 佳充 (久米島ウミガメ館)
3. 久米島における海草藻場の現状 島袋 寛盛 (水産研究・教育機構)
4. 久米島にアオウミガメはどれくらいいるのか？ 西澤 秀明 (京都大学)
5. 久米島のアオウミガメはどこからやってくるのか？ 浜端 朋子 (東北大学)

## 第二部 アオウミガメと海草藻場との共存に向けて久米島が出来る事

1. 保護から生態系管理へ：久米島における現状と課題 奥山 隼一 (水産研究・教育機構)
2. 海の乙(きのと)と巳(み) -久米島でのアオウミガメの食害対策に発した藻場再生構想- 新宅 航平 (いであ株式会社)
3. 久米島における海草藻場再生の取り組み 島袋 寛盛 (水産研究・教育機構)
4. 総合討論 司会： 杉本 あおい (慶應義塾大学) ・ 奥山 隼一 (水産機構)